

東証スタンダード市場・福証  
証券コード：6998

決算補足説明資料

# 2024年3月期（2023年度） 決算概要

2024年5月9日



## はじめに

---

当社商品の概要

## 2024年3月期（2023年度）業績概要

---

1. 今回発表のポイント
2. 連結業績の概要
3. 主な経営指標
4. セグメント別の状況
5. 財務の状況（連結）
6. キャッシュ・フローの状況（連結）
7. 期末配当
8. 次期（2025年3月期）の見通し及び配当予想
9. 「2024中期経営計画」の進捗
10. ポートフォリオ再編に向けた取組み
11. サステナビリティの取組み

## 参考資料

---

1. 業績の推移（連結）
2. 配当金の推移

# 当社商品の概要

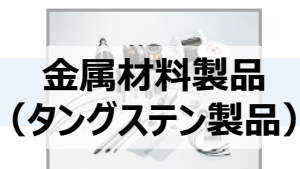
# 当社商品の概要

## 「粉末冶金技術」を駆使し、タングステン製品を軸に多様な特性を持つ商品を展開

粉末冶金技術



電球用タングステンワイヤー製品



金属材料製品  
(タングステン製品)

遮蔽能力に優れる  
医療関連カテーテル用  
タングステンワイヤー製品



ブレーカー用電気接点



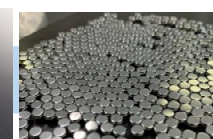
電気・電子製品  
(タングステン合金)



抵抗溶接用電極



プラズマ電極



E Vリレー用接点

電機部品事業

他の商品

- ・コピー機や空気清浄機の放電線
- ・自動車のホーン用接点

- ・放射線遮蔽材料
- ・バルンサー用錘
- ・その他電極製品

- 熱に強いタングステンの特徴を用いた電球フィラメントが、当社の出発点
- タングステンに銅や銀を組み合わせ、**導電性や耐アーク性を備えた**合金を開発
- 粉末冶金技術を生かし、タングステン以外のチタンやアルミニウム等からなる**緻密**なファインセラミックスを開発

「粉末冶金技術」  
「素材のノウハウ」  
「加工技術」

多様な特性を持つ  
商品を展開

1931

1950

1970

1980

1990

2000

タングステンカーバイドとコバルト等を組み合わせ、**耐摩耗性や耐腐食性に優れた**合金を開発

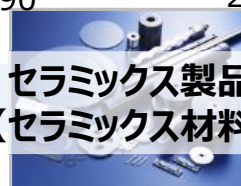
超硬合金製品  
(タングステンカーバイド合金)



ハードディスクドライブ  
(HDD)用  
磁気ヘッド基板



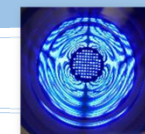
セラミックス製品  
(セラミックス材料)



セラミックス材料を応用

開発

- ・遠紫外LED

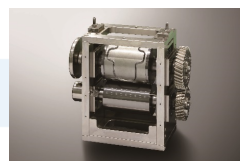


- ・耐摩耐食部品
- ・セラミックス精密加工品
- ・ウルトラファインバブル関連製品

機械部品事業

- ・産業用設備向け耐摩耗部材
- ・液晶塗付用超硬長尺製品
- ・超硬精密加工品

NTダイカッター



二軸押出機用部材  
「MAZELLOY®」



# 当社商品の概要

## くらしのあらゆる場面で使用される当社の製品

### 今日を支え、明日を輝かせる。

日本タングステンは、人々の毎日の生活を支え、明日を輝かせる製品づくりをめざします。当社の技術は、暮らしを構成する身近な製品のなかに数多く組み込まれ、また、そうした身近な製品を作るための機械部品・工具にも数多く利用されています。



# 当社商品の概要

## 4つのターゲット市場に、粉末冶金技術を生かした素材・商品群を提供

ターゲット市場	事業セグメント	
	機械部品事業	電機部品事業
半導体・電子部品市場	 <p>ハードディスクドライブ(HDD)用磁気ヘッド基板</p> <p>世界 No. 1 シェア(当社調べ)</p>	 <p>プラズマ電極</p>
自動車部品市場	 <p>二軸押出機用部材 「MAZELLOY®」 <b>新商品</b> (コンパウンド混錬機用)</p>	 <p>EVリレー用接点</p>  <p>抵抗溶接用電極 (電装部品溶接用)</p>
産業用機器・部品市場	 <p>産業用設備向け耐摩耗部材 液晶塗付用超硬長尺製品</p>	 <p>ブレーカー用電気接点</p>
衛生用品機器 ・医療用部品市場	 <p>NTダイカッター 国内No.1・世界No.2シェア(当社調べ)</p> <p><b>新素材を開発</b></p>	 <p>医療関連カテーテル用 タングステンワイヤー製品</p>
(新商品開発)	 <p>遠紫外LED関連製品</p> <p>当社と国立研究開発法人理化学研究所が、波長230ナノメートル (nm、1nmは10億分の1m) の遠紫外発光ダイオード (LED) 光源と、集積化による高出力光源モジュールを共同開発</p>	



# 2024年3月期（2023年度） 業績概要

# 1. 今回発表のポイント

## 2024年3月期（2023年度）決算の総括

・2024年3月期は、**連結業績、個別業績ともに減収減益**

### 経済環境

- ・新型コロナウイルス感染症による行動制限の緩和やインバウンド需要の回復等、社会・経済活動の正常化が進んだこと等により、経済は回復基調で推移
- ・原材料・エネルギー価格の高騰や円安による物価上昇、ウクライナ情勢の長期化及び中東情勢の緊迫化等の影響等により、先行きは依然として不透明な状況が継続する中で推移

### ターゲット市場の概況

- ・産業用機器・部品市場 : 一部で前連結会計年度にて好調だった需要が一服する等の減少要因もあったが、需要が大きく回復した商品や、新商品の販売増等により、増収
- ・半導体・電子部品市場 : データセンター等で使用されるハードディスクドライブにおいて、在庫過多の解消が長期化したことから、減収
- ・自動車部品市場 : 自動車生産の増加に伴い、緩やかな回復基調で推移したものの、前連結会計年度の水準には至らず、減収
- ・衛生用品機器・医療用部品市場 : 中国での需要減少など厳しい需要環境の中で、新材料の投入など新たな取組みにより、増収基調に転換

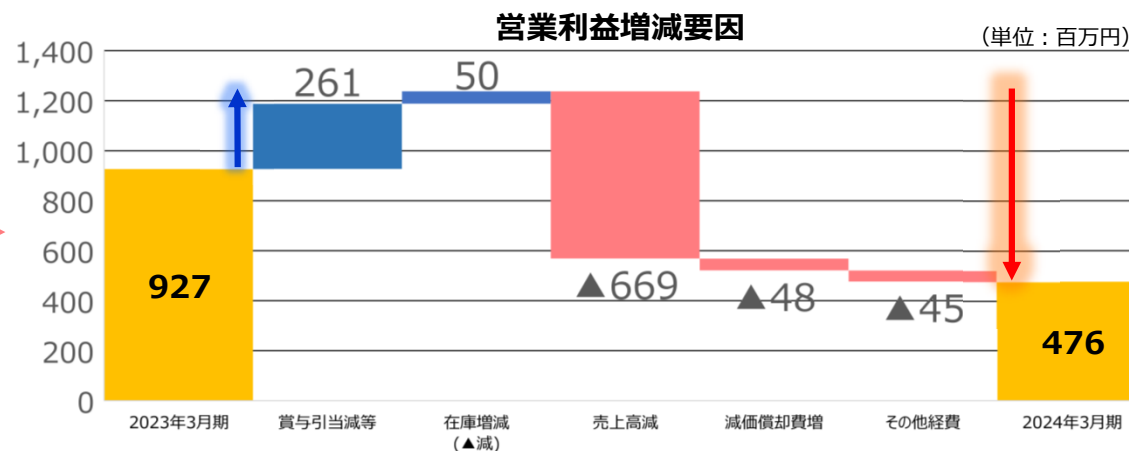
### 今後の見通し

- 今後の見通し : ・国内では企業の設備投資や個人消費の拡大等が期待される中で、中国経済の停滞、中東情勢等の地政学リスク、また、米国の大統領選挙等による国際情勢の変化の懸念等により、先行きは依然として経済成長の不確実性が高い中で推移するものと思われる  
・当社グループがターゲットとする市場においては、在庫調整による需要減少が底を打つ傾向にあるものの、回復の見通しは、市場により緩やかもしくは停滞する傾向にあるものと見込む
- ・通期業績予想 : 2025年3月期通期の業績予想は、連結・個別ともに増収増益を見込む。
- ・期末配当金予想 : 2025年3月期の予想年間配当金は50円。（中間25円、期末25円、予想配当性向43.2%）



## 2. 連結業績の概要

	2023年3月期	2024年3月期	(単位：百万円) 対前年比	
			増減額	増減率
売上高	12,645	11,464	△1,180	△9.3
営業利益	927	476	△450	△48.6
経常利益	1,227	786	△441	△36.0
親会社株主に帰属する 当期純利益	767	527	△240	△31.3



売上高	114億6千4百万円 (前年比9.3%減)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・半導体・電子部品市場及び自動車部品市場での、在庫調整に伴う注力商品の需要減少の影響が大きく、減収</li> <li>・「日本タングステングループ2024中期経営計画」の後半2年となる2ndステージにおいて、ROICツリーを展開した資本収益性強化のための諸施策の実行、成長期待事業へのリソースの集中及び産学連携した新商品の開発・事業化に注力する等、事業ポートフォリオの改善に積極的に取り組む</li> <li>・サステナビリティの取組みにおいては、全社横断的な組織を立ち上げ、社内への浸透及び経営戦略への実装に注力</li> </ul>
営業利益	4億7千6百万円 (同 48.6%減)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円安に伴う海外の連結子会社の増収効果があったものの、利益縮小の要因として、注力商品の売上高が減少したことや、当期に実施した賃上げに伴う固定労務費の増加、電力料金単価や水素等の補助材料費の価格上昇等が影響したこと、また、生産性向上に向けた積極的な設備更新による減価償却費の増加等により、減益</li> </ul>
経常利益	7億8千6百万円 (同 36.0%減)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・為替差益の発生等あったものの、営業利益が減少したこと等により、減益</li> </ul>
親会社株主に 帰属する当期 純利益	5億2千7百万円 (同 31.3%減)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清算中であった海外子会社の設備の一部及び投資有価証券の一部を売却し特別利益として計上したものの、特別損失として、海外子会社の清算に伴う為替換算調整勘定取崩損を計上したこと及び医療・照明機器事業及び産業用機器・部品事業の収益性の低下に伴う固定資産の減損損失1億1千9百万円を計上したこと等により、減益</li> </ul>

### 3. 主な経営指標

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期
売上高営業利益率(%)	2.8	7.6	7.3	4.2
自己資本当期純利益率:ROE(%)	△0.6	8.4	7.0	4.5
総資産経常利益率:ROA(%)	4.1	7.9	7.4	4.6
1株当たり当期純利益又は当期純損失(△):EPS(円)	△13.01	180.51	158.78	108.87

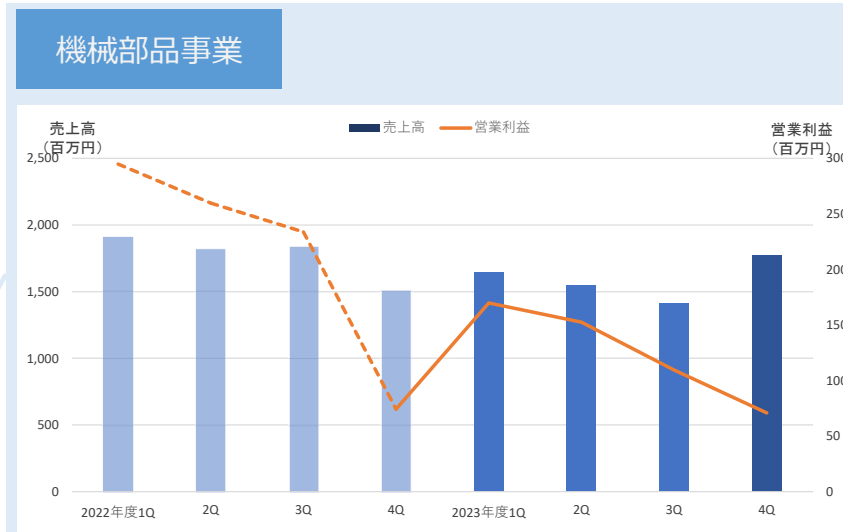
➤ 2024年3月期の連結業績が、減収減益となったことにより、各経営指標は悪化

(注) 2024年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2021年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益又は当期純損失を算定しております。

# 4. セグメント別の状況

## ■ セグメント業績の概要

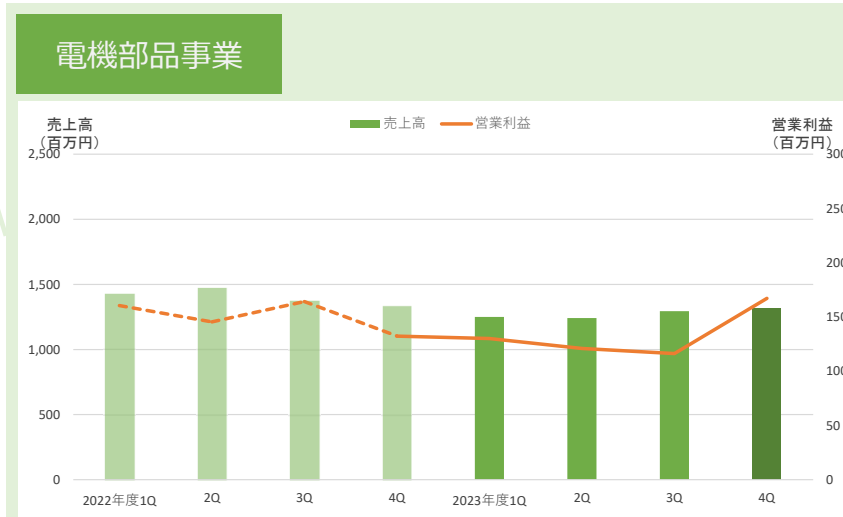
		2022年3月期	2023年3月期	(単位：百万円)	
				増減額	増減率
機械部品事業	売上高	7,066	6,383	△682	△9.7
	営業利益	862	502	△360	△41.7
電機部品事業	売上高	5,608	5,107	△500	△8.9
	営業利益	602	534	△67	△11.3
調整額	売上高	△28	△26	2	-
	営業利益	△537	△560	△22	-
全社	売上高	12,645	11,464	△1,180	△9.3
	営業利益	927	476	△450	△48.6



	2023年3月期	2024年3月期
売上構成比	55.8%	55.6%
営業利益率	12.2%	7.9%

**前年比**  
 ・売上高は、9.7%の減収  
 ・営業利益は、41.7%の減益

**四半期推移**  
 ・売上高は、第4四半期に産業用機器・部品市場の需要が増加し、17億円台に回復  
 ・営業利益は、半導体・電子部品市場での売上高減少の影響が大きく、営業利益率は約8%で推移



	2023年3月期	2024年3月期
売上構成比	44.2%	44.4%
営業利益率	10.7%	10.5%

**前年比**  
 ・売上高は、8.9%の減収  
 ・営業利益は、11.3%の減益

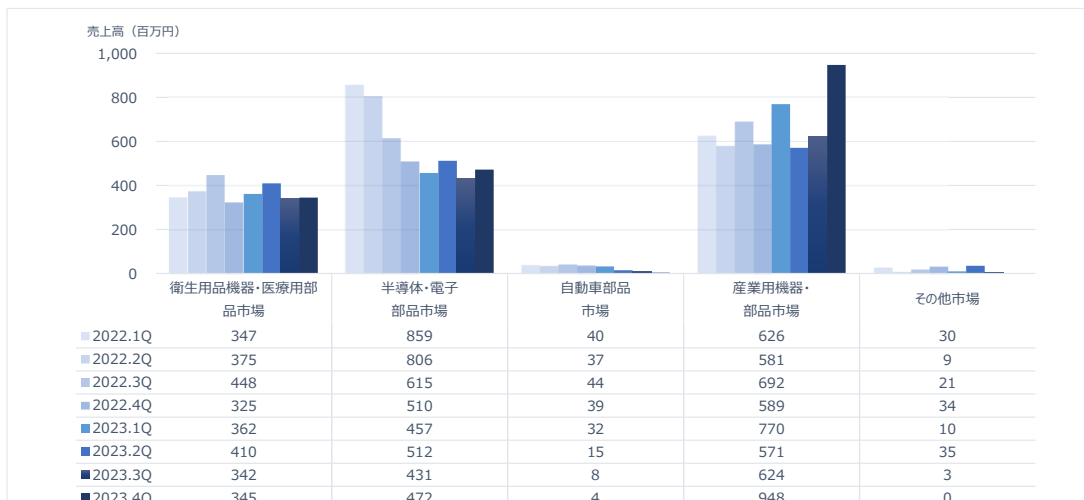
**四半期推移**  
 ・売上高は、緩やかながらも上昇基調で推移  
 ・売上高が2022年度第3四半期の水準であり、営業利益も同様の水準に回復

## 4. セグメント別の状況

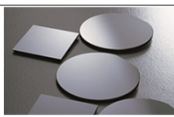
機械部品事業

NIPPON TUNGSTEN CO.,LTD. 12

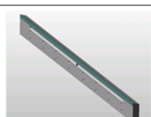
### ■ ターゲット市場別業績・主要商品の状況



NTダイカッター



HDD用  
磁気ヘッド  
基板



超硬長尺  
製品  
・二軸混練  
押出機用の  
金属部品  
・製鉄所向け  
の耐摩耗部材

※売上高はセグメント間の取引を含んでおりません。

### ターゲット市場の主要な商品の状況 (前年比)

#### ■ 産業用機器・部品市場

##### 塗布工具用として使用される超硬長尺製品

前連結会計年度の好調な需要が一服したこと等により、減収

##### 二軸混練押出機用の金属部品

当連結会計年度下期に集中した需要に対応し、増収

##### 製鉄所向けの耐摩耗部材

ユーザーの部材交換需要が高まり、増収

#### ■ 半導体・電子部品市場

##### 情報関連機器のハードディスクドライブ (HDD) 用磁気ヘッド基板

データセンター等で使用される大容量HDDが、需要の一服による在庫調整の影響を受けており、当連結会計年度第3四半期で下げ止まり、当第4四半期は回復基調であるものの、大幅な減収

#### ■ 衛生用品機器・医療用部品市場

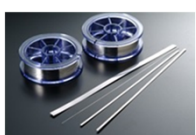
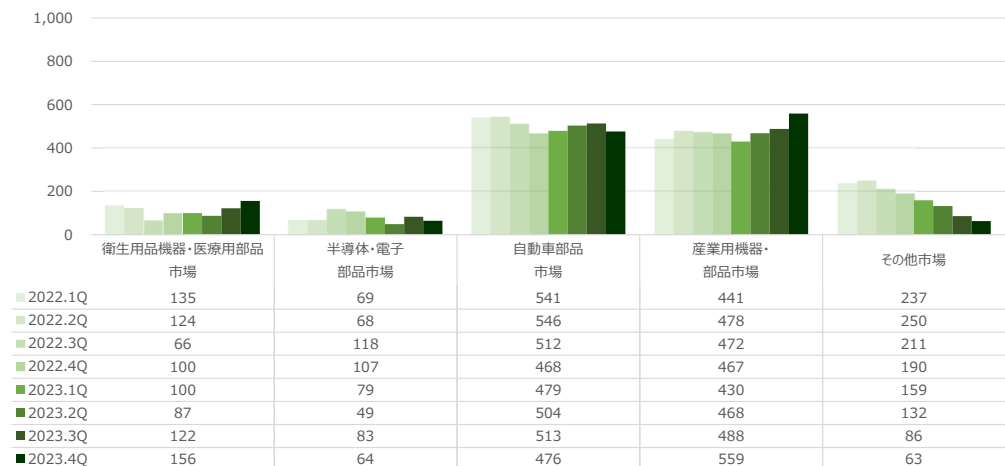
##### NTダイカッター

顧客の投資抑制や中国市場の需要減少等、市場をとりまく環境が変化する中で、新材料による販売促進等の取組み等により、増収

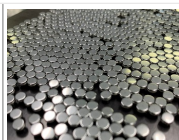
## 4. セグメント別の状況

### 電機部品事業

売上高（百万円）



医療関連  
部材のカテーテル用  
タングステン  
ワイヤー製品



EV用接点



ブレーカー用  
電気接点



抵抗溶接  
電極

### ターゲット市場の主要な商品の状況（前年比）

#### ■ 自動車部品市場

##### EVリレー用接点

顧客の在庫調整が継続していることや、EV市場の競争の高まり等により、若干の減収

##### 電装部品溶接用の抵抗溶接用電極

顧客の在庫調整の解消や車載機器製造用の電極の需要が好調であり、増収

#### ■ 産業用機器・部品市場

##### 産業用設備向けのブレーカー用電気接点

顧客の在庫積み増しによる生産調整が長期化していること等により、減収

#### ■ 衛生用品機器・医療用部品市場

##### 医療関連部材のカテーテル用タングステンワイヤー製品

東南アジア地域向けの在庫調整が解消したことや、北米地域では好調な需要に支えられ、増収

※売上高はセグメント間の取引を含んでおりません。

## 5. 財務の状況（連結）

(単位：百万円)

	2023年3月期	2024年3月期	対前年比 増減額
総資産	16,807	17,137	330
負債	5,556	5,024	△531
純資産	11,251	12,113	862

### 主な経営指標

	2023年3月期	2024年3月期
総資本回転率（回）※1	0.75	0.67
自己資本比率（%）	66.9	70.6
1株当たり純資産（円）	2,324.13	2,498.79

※1 総資本回転率の計算に用いる総資本は期末値を用いています。

※2 2024年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2023年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産を算定しております。

		主な増加要因 (単位：百万円)	主な減少要因 (単位：百万円)
<b>総資産</b>	<b>171億3千7百万円</b> (前連結会計年度末比 3億3千万円増)	売上債権 +762 有形固定資産 +184 投資有価証券 +415	現金及び預金 △1,034
<b>負債</b>	<b>50億2千4百万円</b> (同 5億3千1百万円減)	契約負債 + 9 固定負債 +147	仕入債務 △318 設備関係未払金 △280
<b>純資産</b>	<b>121億1千3百万円</b> (同 8億6千2百万円増)	利益剰余金 +260 その他有価証券評価差額金 +237 為替換算調整勘定 +227	—

## 6. キャッシュ・フローの状況（連結）

	2023年3月期	2024年3月期	(単位：百万円) 対前年比 増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,171	289	△882 (収入減)
投資活動によるキャッシュ・フロー	△238	△1,071	△833 (支出増)
財務活動によるキャッシュ・フロー	△341	△302	39 (支出減)
現金及び現金同等物に係る換算差額	10	50	40
現金及び現金同等物の期末残高	4,513	3,479	△1,033

営業活動によるCF	投資活動によるCF	財務活動によるCF	現金及び現金同等物の期末残高
<p><b>営業活動により獲得した資金 +2億8千9百万円</b></p> <p>(前年度比8億8千2百万円の収入減)</p> <p>【主な要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人税等の支払額が減少</li> <li>・売上債権が増加</li> <li>・税金等調整前当期純利益が減少</li> </ul>	<p><b>投資活動により支出した資金 △10億7千1百万円</b></p> <p>(前年度比8億3千3百万円の支出増)</p> <p>【主な要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有形固定資産の取得による支出が増加</li> </ul>	<p><b>財務活動により支出した資金 △3億2百万円</b></p> <p>(前年度比3千9百万円の支出減)</p> <p>【主な要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配当金の支払が減少</li> </ul>	<p><b>34億7千9百万円</b></p> <p>(前連結会計年度末比10億3千3百万円減) 現金及び現金同等物に係る換算差額 4千万円を含む</p>

## 7. 期末配当

- 第113期の配当金より、年間の1株あたり配当額50円を下限とする配当方針に変更
- 期末配当は、2023年5月19日に公表した期末配当予想の通り、1株当たり25円（普通配当）
- 年間配当金は1株あたり50円（中間配当25円、期末配当25円）

### 【配当方針】

当社は株主の皆様への利益還元について、新製品開発を推進するための設備・人財・研究などへの戦略的投資、中長期的な企業財務体質の強化等を総合的に勘案しつつ、原則として、年間の1株あたり配当額50円を下限として、親会社株主に帰属する当期純利益の30%を目安とした安定的・継続的な配当を実施するよう努めます。

また、1株当たりの株主価値を向上させるとともに、資本効率の向上を図るため、適宜自己株式の取得に努めます。なお、著しい経営環境の変化などの特殊要因により、親会社株主に帰属する当期純利益が大きく変動する場合は、配当金の見直しを検討するものとします。

	2023年3月期	2024年3月期
親会社株主に帰属する 当期純利益	百万円 <b>767</b>	百万円 <b>527</b>
中間配当金	円 銭 <b>30.00</b>	円 銭 <b>25.00</b>
期末配当金	円 銭 <b>30.00</b>	円 銭 <b>25.00</b>
配当性向（連結）	% <b>37.8</b>	% <b>45.9</b>

（注）2024年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2023年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、配当金額等を表示しております。



## 8. 次期（2025年3月期）の見通し及び配当予想

### 経済環境の見通し

・国内では企業の設備投資や個人消費の拡大等が期待される中で、中国経済の停滞、中東情勢等の地政学リスク、また、米国の大統領選挙等による国際情勢の変化の懸念等により、先行きは依然として経済成長の不確実性が高い中で推移するものと思われる

### 当社グループの状況と次期の見通し

- ・当社グループがターゲットとする市場及び当社グループの取組み
  - ・在庫調整による需要減少が底を打つ傾向にあるものの、回復の見通しは、市場により緩やかもしくは停滞する傾向にあるものと見込む
  - ・新商品及び注力商品の販売強化や開発品の事業化の加速等に注力し、業績の向上並びにポートフォリオの再編に努める
- ・日本タングステングループ 2024中期経営計画
  - ・4か年計画の3年目が終了。前半2年で目標値に近づいた業績が、3年目で乖離する状況
  - ・サステイナブルビジョン2050並びに2030年長期ビジョンの達成に向けてバックキャストした課題に基づいた経営戦略を着実に実行する
- ・次期（2025年3月期）の業績予想
  - ・通期の業績予想は、連結・個別ともに増収増益を見込む

### 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）及び次期（2025年3月期）配当予想

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

連結業績予想	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益	年間配当金			配当性向(連結)	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	第2四半期末	期末	合計		
第2四半期(累計)	5,900	4.1	180	△37.8	310	△32.3	210	△41.9	43.35	2025年3月期(予想)	25円	25円	50円	43.2%
通期	12,000	4.7	520	9.2	800	1.8	560	6.2	115.61					

## 9. 「2024中期経営計画」の進捗

### ■ 2ndステージの見通し

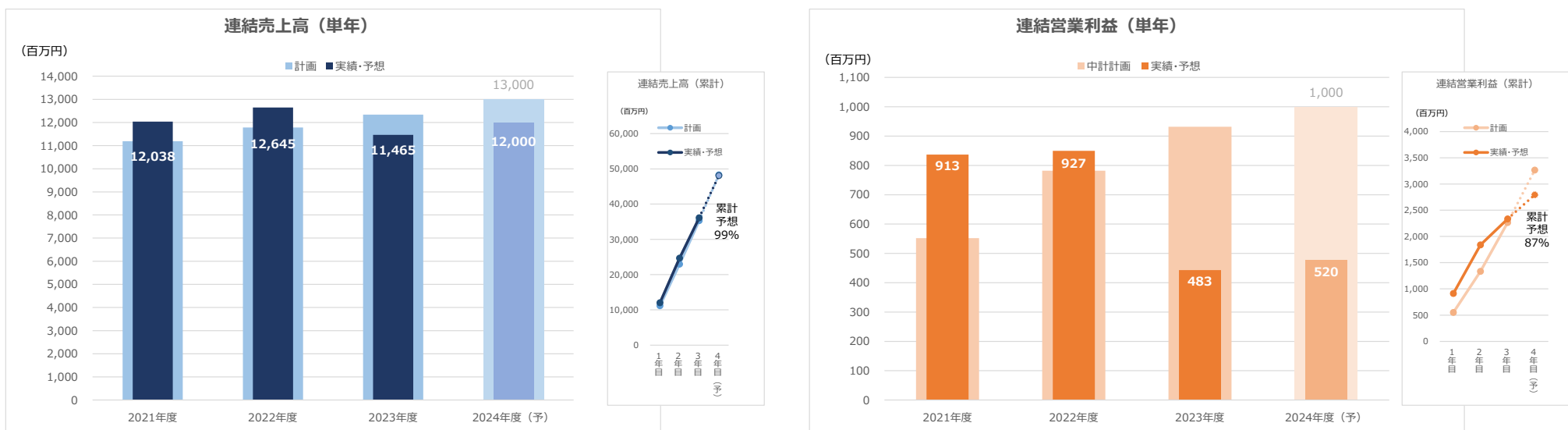
- ・2023年度は、半導体・電子部品市場や自動車部品市場の在庫調整等による一時的な需要減の影響から減収となり、厳しい需要環境で推移した。
- ・2024年度は、在庫調整による需要減少が底を打つ傾向にあるものの、回復の見通しは、市場により緩やかもしくは停滞する傾向にあると見込む
- ・サステナブルビジョン2050並びに2030年長期ビジョンの達成に向け、バックキャストした課題に取り組むことや、新商品及び注力商品の販売強化や開発品の事業化の加速等に注力し、業績の向上並びにポートフォリオの再編に努める

	2020年度 実績	1st Stage		2nd Stage		
		2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年中計 最終年度目標	2024年度 業績予想
売上高	98.9億円	120.3億円	126.5億円	114.6億円	130億円	120億円
営業利益	2.7億円	9.1億円	9.3億円	4.8億円	10億円	5.2億円
営業利益率	2.8%	7.6%	7.3%	4.2%	8%	4.3%
ROE	△0.6%	8.4%	7.0%	4.5%	8%	4.6%
研究開発費	2.6億円	3.1億円	3.3億円	3.0億円	14億円/4年 (3.5億円/年)	—
設備投資額	3.2億円	2.6億円	6.1億円	8.7億円	32億円/4年 (8億円/年)	—
株主還元 (1株当たり配当金)	20円	60円	60円	50円	50円	50円

※詳細は当社ホームページの経営計画サイトをご参照ください。(https://www.nittan.co.jp/company/b\_policy/plan.html)

# 9. 「2024中期経営計画」の進捗

## 中期経営計画4か年の比較



2021・2022年度

コロナ禍において急回復した「自動車部品市場」や、「半導体・電子部品市場」における好業績が牽引し、増収増益を計上。

2023年度

「半導体・電子部品市場」及び「自動車部品市場」における在庫調整の長期化、ウクライナ侵攻（2022年2月～）に端を発した世界的なインフレに起因した原材料・エネルギー価格高騰により、減収減益。

2024年度  
予想

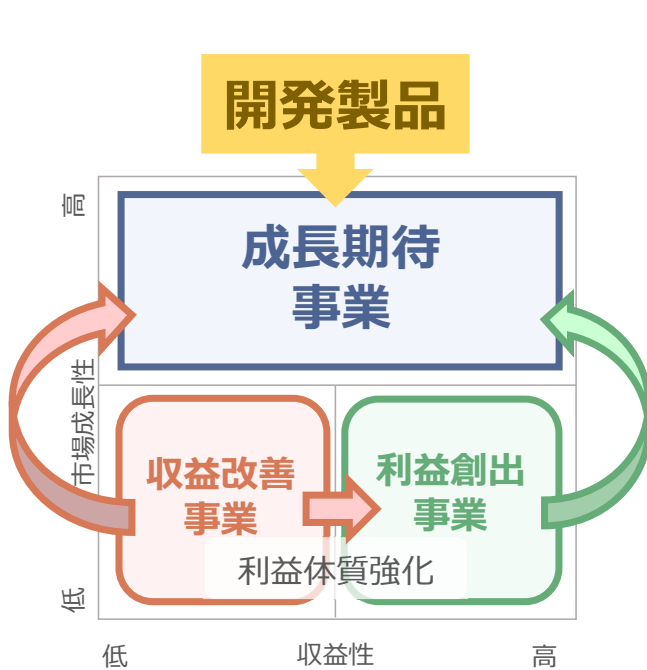
在庫調整の緩和等より、各市場で増収が見込まれるものの、主力商品であるHDD用磁気ヘッド基板や静電チャック等の半導体・電子部品市場での売上高は好調時の2022年度を下回りつつ推移。原材料・エネルギー価格上昇分は価格転嫁できたものの、2023年度からの賃上げによる人件費及び減価償却費の増加分を補えず、営業利益を下押し。

4年間の累計  
予想達成率

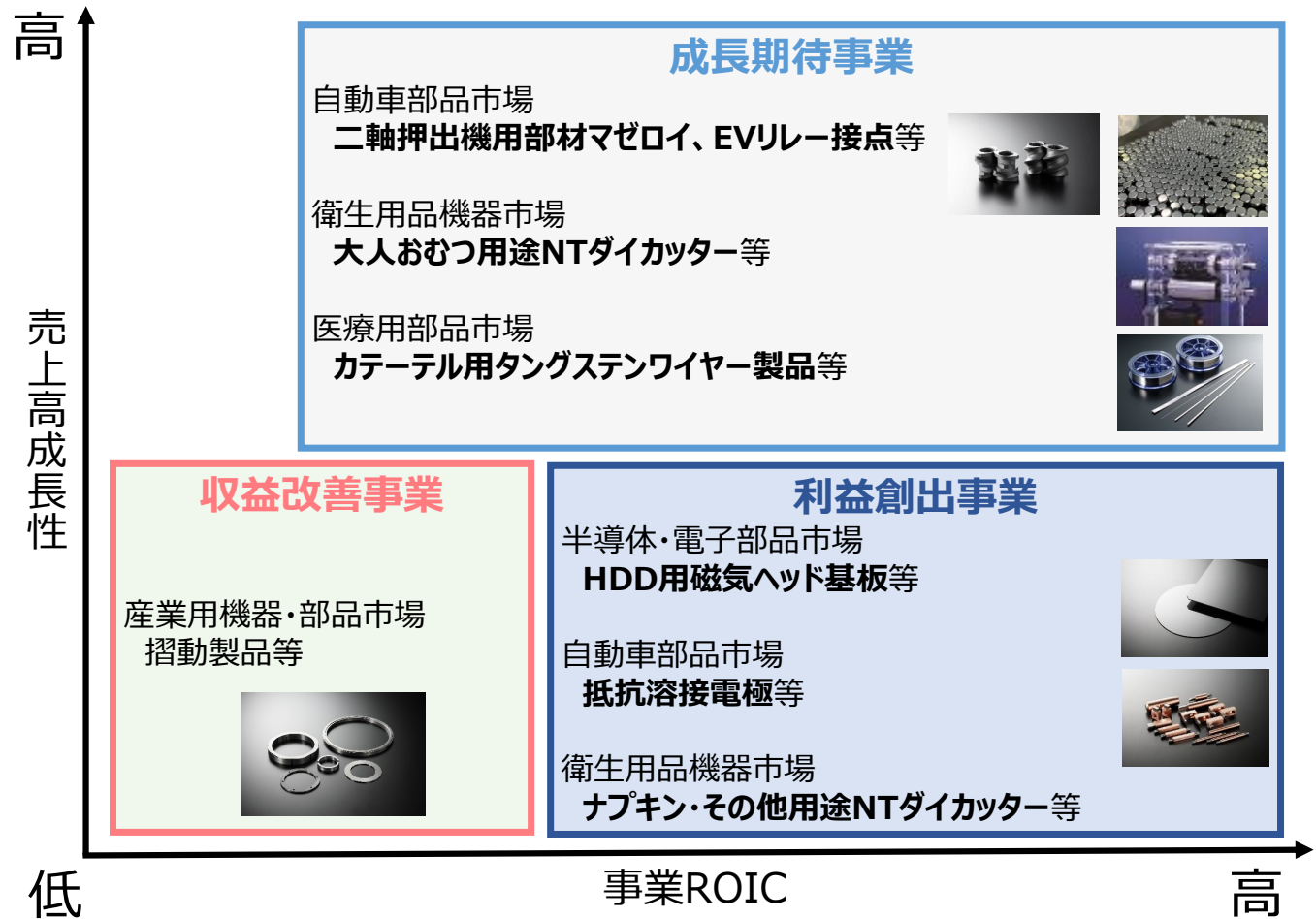
コロナ禍収束需要からの反動減・中国関連需要の変調もあり、中期経営計画4か年の累計予想では、売上高が99%、営業利益が87%となる見込み。

# 10. ポートフォリオ再編に向けた取組み

## ■ ポートフォリオ再編に向けた取組み



収益改善事業の取捨選択や、高収益事業の利益体質強化により、事業ポートフォリオを再編し、事業価値を最大限に高める。



## 10. ポートフォリオ再編に向けた取組み TOPIC

衛生用品機器・医療用部品市場

成長期待事業

- ▶ 世界のおむつ関連市場では、生理用品の浸透率の向上や急速な高齢化に伴い、生理用ナプキン製造機械や大人用おむつ製造機械の需要が堅調に推移していくものと見込まれる。

### 当社グループの状況・取組み

新材料・モニタリング装置・新構造ユニットの導入により他社競合製品と差別化し、海外市場での需要の取り込みを図る。

#### 新材料の開発とNTダイカッターへの適用

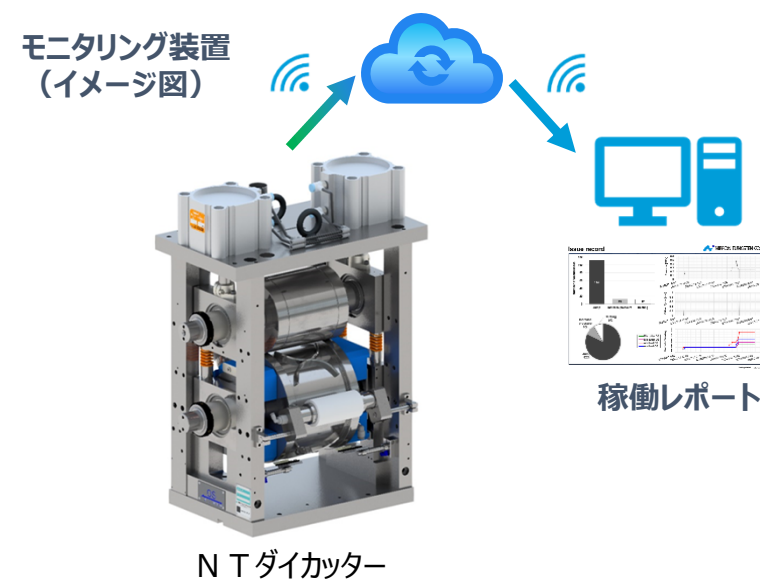
従来材と比べて耐摩耗性を維持しつつ、欠けにくさが向上。  
製品の長寿命化による、安定生産が期待できる。

#### モニタリング装置の開発 (2024年度から顧客評価を開始予定)

おむつ・ナプキンの製造過程での環境変化や異常値をリアルタイムで測定、顧客の予防保全や生産性向上に貢献することが可能。

#### 新構造ユニットの開発

従来設計のユニットと比べ、シンプルな構造で、生産現場でのメンテナンス性が向上。



## 10. ポートフォリオ再編に向けた取組み TOPIC

### 抵抗溶接用電極（自動車部品市場）

- 当社の抵抗溶接用電極は、EVモーターを製造する過程で主に使用される。
- EVの普及により、EVモーター市場の抵抗溶接用電極の需要は増加している。
- EVモーターは、電気自動車（EV）だけでなく、ハイブリッド車（HV）およびプラグイン・ハイブリッド車（PHEV）などの駆動用モーターにも搭載されている。従って、今後も需要は堅調に推移していくものと見込んでいる。

### 利益創出事業



抵抗溶接用電極

### ブレーカー用電気接点（産業用機器・部品市場）

- 再生可能エネルギー等の電力多様化およびEV充電等により、今後の電力需要は増加傾向が見込まれる。また、既存送配電設備の老朽化も進んでいくものと思われる。
- 送配電設備の内、遮断機・開閉器に使用される電気接点（ブレーカー用電気接点）も取替含め需要が増加していくことを見込んでいる。

・低圧気中遮断器ACB（Air-Circuit-Breaker）、配線用遮断器 MCCB（Mold Case Circuit Breaker）に使用される電気接点（焼結接点）では当社製品は国内シェアNo.1

### 当社グループの取組み

- ✓ 2024年度より、注力分野の需要拡大に対応するため組織改正を行い、「自動車・医療産業機器製造部」「電機産業機器製造部」とした。また、需要増に対応するため、飯塚工場内に新たに生産ライン増強計画である。

# 10. ポートフォリオ再編に向けた取組み TOPIC

## 遠紫外LED関連製品

- ▶ 理化学研究所との共同開発により、人体に無害でウイルスを不活化する波長230nm領域の遠紫外 LED光源並びに集積化による高出力モジュールを開発。
- ▶ 波長230nm LEDを用いて発光に至った報告例は少なく、本分野では最先端の研究成果の一つとなる。
- ▶ 波長230～235nm領域の紫外光となる遠紫外線は、人体への影響を低く抑えつつ、ウイルスに対する不活化効果が高いとされる。

## 当社グループの取組み

- ✓ 今後、人体に対して無害とされる波長のLEDを活用して、医療における予防・検査、環境衛生機器のコア部品として、2025年の製品化を目指す。

## 新商品開発



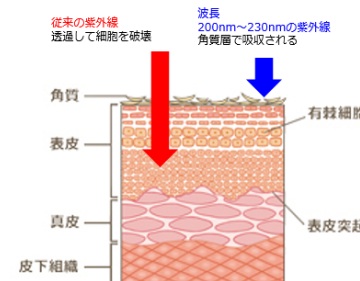
波長230nmLED

### ■ 波長230 nmの紫外線とは？

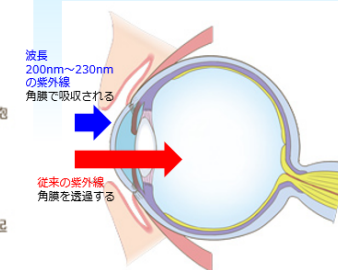


**波長 200nm～230nm の紫外線**  
・ウイルスに対しては細胞核に到達しますが、人体に対しては角質層、角膜で吸収されます。  
・紫外線が細胞分裂する皮膚や眼球の内部へ到達しないため、人体に影響が少ないとされます。

### 皮膚への影響



### 目への影響



# 11. サステナビリティの取組み

- 当社が持続的に成長するための、「2050年の目指す姿」を設定。
- 2050年までの長期的なスパンで、目指す姿からバックキャストした施策の取組みを実行。
- 取組みは中期経営計画に実装し、研究開発投資及び適切な人的・設備投資を行い、当社のブランド・ノウハウ等の企業価値を高め、事業ポートフォリオを再編。

成功の柱		2050年の目指す姿
CN	カーボンマイナスへの挑戦	実質カーボンマイナスを達成します。
CE	枯渇リスクの高い資源の有効活用	枯渇リスクの高い資源の最終廃棄をゼロにします。
CV	提供価値の転換と新たな価値の創出	消費資源量あたりの価値を大きく飛躍させるビジネスモデルを構築します。省エネ、省資源、脱炭素などの社会課題解決につながるソリューションの提供を中核事業とします。
CW	働きがいと創造力のスパイラルアップ	エンゲージメントが高く、多様な価値観を有し、専門性を高め合う人々が集う企業になります。
CX	リアルとデジタルの融合	デジタル技術の活用により人々の働き方や事業そのものの変革を行い、「生産性の向上」、「変化への対応・意思決定の迅速化」、「新しいビジネスモデルや顧客価値の創出」を実現します。



2023年認証取得※

中期経営計画への実装

サステナブルビジョン2050の達成

2030年 長期ビジョンの達成

中期経営計画の達成

事業ポートフォリオの再編

ブランド力、ノウハウ等の醸成

研究開発投資  
適切な人的・設備投資

※ecoVadis (エコバディス)

フランスに拠点を置くEcoVadis社による、サプライヤー企業の持続可能性を評価・モニタリングするための共同プラットフォーム。当社は、ブロンズに認定。



# 11. サステナビリティの取組み TOPIC

## カーボンマイナスへの挑戦

実質カーボンマイナスを達成します。

### 取組みテーマ

- 事業活動から発生する温室効果ガスを減らします。
- 使用するエネルギーから発生する温室効果ガスを減らします。
- サプライチェーンの川上川下で発生する温室効果ガスを減らします。
- カーボンマイナスを実現するための商品開発を強化します。

## 成功の柱

CN	カーボンマイナスへの挑戦
CE	枯渇リスクの高い資源の有効活用
CV	提供価値の転換と新たな価値の創出
CW	働きがいと創造力のスパイラルアップ
CX	リアルとデジタルの融合

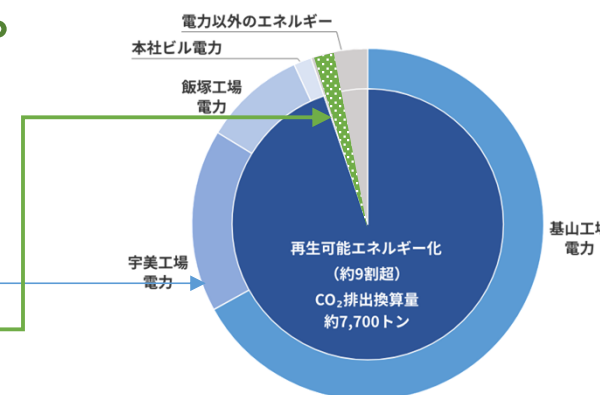
## ■ 当社が排出するCO<sub>2</sub>削減の取組みをより加速していきます。

### 【カーボンオフセットLPガスの導入】

- ・当社主力工場である基山工場（佐賀県基山町）において、当社が使用するガスの約3割に相当するLPガスを「カーボンオフセットLPガス」に切り替え

### CO<sub>2</sub>排出量削減の取組み

2022年	「再生可能エネルギー由来の電力」へ切り替え
2024年	カーボンオフセットLPガスの導入
その他	一部の製造設備の過熱方式をガスから電気へ順次切り替え



# 11. サステナビリティの取組み TOPIC

## 枯渇リスクの高い資源の有効活用

枯渇リスクの高い資源の最終廃棄をゼロにします。

### 取組みテーマ

- リサイクル原料の活用を推進し地球から採掘する資源を削減します。
- お客様からの回収を含めサプライチェーンにおけるリサイクルを推進します。
- 資源使用量削減だけでなく、省資源形状などを積極的に提案します。

## 成功の柱

CN	カーボンマイナスへの挑戦
CE	枯渇リスクの高い資源の有効活用
CV	提供価値の転換と新たな価値の創出
CW	働きがいと創造力のスパイラルアップ
CX	リアルとデジタルの融合

## ■「お客様からの回収を含めたサプライチェーンにおけるリサイクル」の推進

### 【商品回収・リサイクル体制構築の取組み】

- 当社グループが提供した商品のリサイクルについて運用体制の確立に取り組み中
- 使用済製品回収・再利用の取組みを推進するため古物商の認可取得を予定  
→ 当社定款の事業の目的に「古物営業法に基づく古物商」を追加  
(2024年6月開催予定の定時株主総会にて、定款変更議案を上程)

リサイクルを目指す商品群



タングステン・モリブデン製品



タングステン合金製品



超硬合金製品

# 11. サステナビリティの取組み TOPIC

## リアルとデジタルの融合

データ活用とデジタル技術を基盤とし、価値創造サイクルを迅速に回して提供価値を高めます。

### 取組みテーマ

- スマートファクトリー実現により、生産活動を自動化します。
- 数値計算手法やMIを活用し、開発スピードを向上します。
- データドリブン営業の実現により、お客様へ高付加価値を提供します。
- デジタル技術に習熟し、変革を推進できる人材を育成します。

## 成功の柱

CN	カーボンマイナスへの挑戦
CE	枯渇リスクの高い資源の有効活用
CV	提供価値の転換と新たな価値の創出
CW	働きがいと創造力のスパイラルアップ
CX	リアルとデジタルの融合

## データドリブン営業の実現

### ● KIツール（キーエンス社）を導入

営業マンの誰もが、高度なデータを分析できるようにし、質の高い営業活動や迅速な意思決定につなげる。





# 参考資料

# 1. 業績の推移（連結）

## 経営成績（連結）

区分	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期
売上高	11,607	9,894	12,038	12,645	11,464
営業利益	502	275	913	927	476
経常利益	671	643	1,239	1,227	786
親会社株主に帰属する当期純利益又は当期純損失（△）	598	△62	870	767	527
純資産	9,986	10,011	10,736	11,251	12,113
総資産	16,140	14,994	16,446	16,807	17,137

## 経営指標（連結）

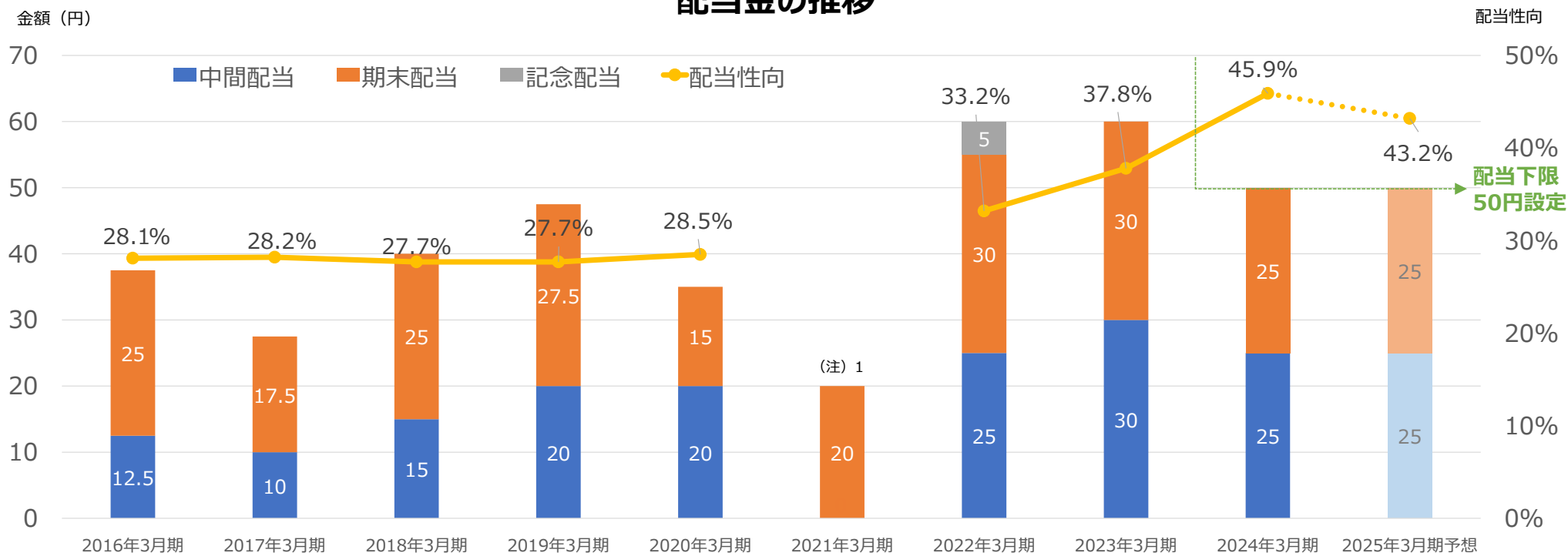
区分	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期
売上高営業利益率（%）	4.3	2.8	7.6	7.3	4.2
自己資本当期純利益率（ROE）（%）	6.0	△ 0.6	8.4	7.0	4.5
自己資本比率（%）	61.8	66.7	65.2	66.9	70.6
1株当たり純資産（BPS）（円）	2,052.18	2,075.94	2,223.75	2,324.13	2,498.79
1株当たり当期純利益又は当期純損失（△）（EPS）（円）	122.99	△ 13.01	180.51	158.78	108.87
総資産経常利益率（ROA）（%）	4.1	4.1	7.9	7.4	4.6

（注）2024年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2020年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、「1株当たり純資産」及び「1株当たり当期純利益又は当期純損失」を算定しております。

## 2. 配当金の推移

■ 株主の皆様への当社の利益還元の方針をこれまで以上に明確にするため、2024年3月期より、年間の1株当たり配当金額に50円の下限を設定しました。今後も安定的・継続的な株主還元を努めてまいります。

配当金の推移



(注) 1 2021年3月期は当期純損失であったため配当性向は該当ありません。

2 2024年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2016年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、配当金額を算定しております。

本資料は情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

また、掲載されている情報は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が独自に予測したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。

従いまして、見通しの達成を保証するものではありません。当社の内部要因や当社を取り巻く事業環境の変化等の外部要因が直接または間接的に当社の業績に影響を与え、本資料に記載した見通しが変わる可能性があることをご承知おきください。

投資に関する最終的な決定は、利用者ご自身の判断でなさるようお願いいたします。